

## 人権保育専門講座③

### 自己表現から共感する想像力へ

## ～安心してもちあじを発揮できる集団をめざして～

大阪多様性教育ネットワーク 沖本 和子 さん

2015年度の人権保育専門講座3は、大阪多様性教育ネットワークの沖本和子さんをお招きし、「自己表現から共感する想像力へ～安心してもちあじを発揮できる集団をめざして～」と題してご講演いただきました。松阪、桑名、熊野の3会場で、74名の方にご参加いただきました。

子どもたち一人ひとりの「もちあじ」が大切にされる空間をつくりだすことが、おたがい共感できる想像力を育むことにつながるということを、「いま、どんなきもち？」のコミュニケーションカードや折り紙を活用したワークショップをとおして教えていただきました。子どもたち一人ひとりの「ちがい」を大切にすることの重要性について、あらためて学ばせていただく機会となりました。



(沖本先生のレジメより一部抜粋)

### コミュニケーションとつながり

わたしたちは、たくさんの人とさまざまな場面・さまざまな関係でつながって生きています。毎日一緒に暮らしている家族やクラスの友だちとの「つながり」はとても大きいといえます。「つながり」が大きいからこそ、そこでのコミュニケーションがうまくいかないと、ねじれも大きくなり、心の痛みも大きくなってしまいます。一人ひとりのもちあじを尊重しながらのコミュニケーションのなかで、“人とかかわろうとする思い”を引き出し、子どもどうしをつなげることが私たちおとなの大きな仕事なのではないでしょうか。



### 自分の気もちに気づくことから

コミュニケーションとは、たがいの気もち、意思の伝達です。自分の気もちが相手にうまく伝わらないとコミュニケーションできないことから、まず自分の気もちを知ることが大切です。いろんな感情をもつ自分を大切にすることができると、相手にもきちんとその思いを伝えられるようになり、人の気もちを感じる心・大切にすることも育まれます。相手とつながろう、気もちをつなごうとする積極的な思いがおたがいのなかに生まれてこそ、心地よいコミュニケーションができます。

## 子どもの感情とおとな

自分を知ること。ありのままの自分を好きになること。気持ちを素直に表現すること。人の思いをしっかりと聴くこと。こういった「自己肯定」「他者理解」の気持ちを育てようとするおとなの存在が、子どもたちのつながりをより大きく、深いものにしていきます。

子どもの育ってきた環境は、それぞれちがいます。子どもの数だけ感情表現の形があるといってもいいでしょう。そのどれもが、今まで過ごしてきた環境のなかで獲得してきた、その子の大切な表現方法なのです。そして、その感情表現は子どもをとりまくおとなの影響をかなり受けてきたものなのだということを、私たちおとなは忘れてはなりません。

## おとなからの発信

子どもたちがつながっていくためには、思いをきちんと受け止めてくれるおとなの存在が必要です。私たちおとなは、子どもたちに「あなたは大切な存在だよ」「あなたのことが大好きだよ」「あなたのその思い、言っているんだよ」というメッセージを常に発信し続けましょう。



## クラス集団はもちあじのたからばこ

自分のことを大切に考えてくれていると感じる仲間のなかで、自己開示をしながら、また友だちからの反応をフィードバックしながら、子どもたちは、自分自身をしっかりとみつめることができるようになっていきます。そして、一人では知ることも感じることもできなかった多様なものの見方や考え方、行動力を築きあげていくのです。クラス集団は、そのようなことのためにあるのだと思います。教室は、多様なもちあじの「おもちゃばこ」であり「たからばこ」なのです。

## 安心な場づくり

### <安心の基本ルール>

#### うなずこう

相手がうなずきながら話を聴いてくれると、なんだかホッとするものです。話す人が、思いをできるだけきちんと伝えられるように、聴く人は、話している人のほうに気持ちを集中させて、からだごとでうなずきながら「あなたぜんぶ」で聴きましょう。「聴く」というのは、耳と目と心を合わせて気持ちを感じあうこと。「あなたぜんぶ」でお互いの気持ちを感じあうことなのです。

うなずきの「おへそ、な♡」

①お～ ②え～ ③うなんや ④なるほど♡

## ひみつは守ろう

安心できる場所だと感じると、心のなかに閉じ込めてきたことや、言葉に出して言えなかった気もちが、ずっと話せたりします。聴いている人を信頼したからこそ、話したその人の気持ちはものすごく大切に扱いましょう。この安心の場所で聴いた個人的な話は、この場所だけの話です。もし、誰かに話した方が解決に結びつくとか、ほかの誰かの力になる話であるとか、あなたがその話を外にもちだしたい理由があるときには、話をした本人に、もちだしていいかきちんと尋ねましょう。



## パス、OK!

だれだって、どうしてもできないことや、できないときってあるものです。そんなときは、「パス」しても大丈夫です。最後まであきらめないことは大切だけれど、がんばりすぎは禁物。休んでいいのです。投げ出すのではなく、バトンを誰かに託しておけば、チャンスはまたやってくるものです。また、ルールを守っていない人がいたら、「きっと何かわけがあるはず」と、その人の気もちに寄り添ってみましょう。守らないわけや、守れないわけがあるかもしれません。ルールは、誰かを不安にするためではなく、みんなの安心を守るためにあるのです。

3つの約束「安心ルール」は、約束を守りあえば「みんなは自分の話をしっかりと聴いてくれる」「ここで話したことは、誤った情報やうわさになったりしない」「疲れたときは休んでいい。自分のペースで進めばいい」ということが保障されるので、自分が大切にされていることをすぐに実感することができます。この約束に貫かれているのは、「おたがいの存在を尊重する」ということです。実際に約束を守ろうとすることで自分自身の気もちと向きあい、おたがいの気もちを感じ、思いあたり助けあたりすることを体感し、かかわりあうことの心地よさを実感するのです。

### 《参加された方より》

- 見本を前でみせることによって、みんながそうならなくてははいけないと刷り込んでしまう、という言葉に考えさせられました。見本と似た考えの子をほめてしまうことを自分の保育でよくしてしまっているなと思いました。反省し、違った考えの子に目を向けていきたいと思います。とても勉強になりました。
- 人の感情を自分の見方でみるだけでなく、いろいろな見方ができるためには、自分の感情も豊かでなければならぬと思いました。しなやかな気もちで子どもたちに接し、子どものいろいろな複雑な気もちがわかる人になりたいと改めて



感じました。先生の話し方がまた素敵でした。やわらかく「そうやなあ〜」と言われると、カッとなっている感情もやわらぎますね。

- ・ 絵カードを使って、いろんな感情があることや、人によって絵が示す感情のよみ方にちがいがあることを教えていただきました。子どもたちの感情や考え方をおとなの考えだけで決めつけず、受けとめることを、これからの保育で大切にしたいと改めて思いました。
- ・ マイナスの感情もおさえてはいけないということを学びました。
- ・ やさしい語り口で落ち着いた雰囲気の中で参加することができました。グループになり少しずつ表情もやわらかくなっていく自分もよくわかりました。一人ひとりの感じ方は本当にさまざま、自分の考えを押しつけることはマイナスのことだと改めて感じました。
- ・ 楽しくてあっという間の時間でした。はじめの自己紹介の時に自分の名前を言いたくなかったので、沖本先生の一言がとてうれしく、安心できました。はじめて出会った方たちともわいわいと過ごせてリフレッシュできましたし、感情表現や捉え方、先生という立場でのかわり方にも様々あるのだと勉強になりました。そして、先生のやさしい声に癒されました。
- ・ 沖本先生のやわらかい声の聴きやすいお話から始まり、あっという間の2時間半でした。今、子どもたちにはもちろんですが、おとなになってからもとても大切なコミュニケーション力のテーマだったので、とても興味深く学ばせてもらいました。先生のお話のなかで、“小さいころ（幼児期）から感情を考えたり豊かな表現ができたり、相手を感じる力があると、とつてもすてきなおとなになれる”ということを引き、納得すると共に、今後にかかしていきたいと思いました。
- ・ おとなの価値観を押しつけて子どもたちを判断してしまうという話は、自分にも当てはまるところがあると感じました。今後の保育に役立てていきたいです。
- ・ 沖本先生の講座は2回目の参加でしたがワークショップ形式の参加型研修がとても新鮮で、あっという間の2時間半でした。おとなも子どもも“もちあじ”“その子らしさ”を大切に安心できる場所で十分に発揮していけるようにしたいです。
- ・ グループも少人数で話しやすく、楽しく参加できました。参加できて本当によかったです。学ぶこと、反省することもたくさんあり、今後の保育に生かしていききたいです。折り紙、早速子どもたちと作ります。
- ・ 親しい人とのグループだったけど、今日の短い時間でもその人の思いや考えが知れてびっくりしました。“人を傷つける言葉がけ”をする前に、どんな言葉がけがいいのか、もう一度考えてきたいです。カードのなかの気もちって、人それぞれだと思い、みんなちがっていいんですよね。折り紙の型が自分だけちょっと違っていただけ、みんなそんなことになるんや、違って見えるけどいいねって言うてくれました。うれしかったです。



- ・ クラスに気になる子どもがいます。心の温度計を使い、接していこうと思っています。また、感情の伝え方がわからない…ということも参考になりました。
- ・ 子どもの自尊感情をそこなう原因として、おとなの声かけが大いにあるということをお頭において、これからの子どもとのかかわりのなかで実践していきたいと思いました。一人でも多くの現場の職員が、こういった場に参加してもらえたら、そして若い年代の方々にも積極的に参加していただき、今後のためのバックボーンとしていただけたらと常々思います。このような働きかけをお願いしたいと思いますし、自分たちも声かけしていきたいと思っています。

